

人権

～みんなが
幸せになるために～
益城町人権・同和教育推進協議会

Vol.543 「笑顔あふれる未来のために」

学

学校では、人権に関するさまざまな学習が行われています。学びを通して、子どもたちはどのような力を育んでいるのでしょうか。

学校における人権教育の目標は、「自分の大切さと共に他の人の大切さも認め、それが態度や行動に現れるようにする」ことです。日々の授業や生活で、子どもたちは自分と異なる考えや背景をもつ友達の存在に気付き、相手の気持ちを想像したり、異なる意見を尊重して折り合いをつけたりする中で、共感力や想像力、コミュニケーション力などを育んでいきます。

一方、子どもたちを取り巻く社会には、いじめ、偏見や差別などのさまざまな人権問題が存在しています。そのため、自他の人権を守り、人権

問題を解決する力を養うことも不可欠です。

以前、水俣市の子どもたちが、水俣病に関連する差別的な言動を受けた事例がありました。この時、彼らは毅然と抗議するばかりでなく、水俣病についての正しい理解を相手に求めました。いわれない偏見に直面しても動揺せず、相手との対話により理解を求めた子どもたちのその姿勢は、学校や地域での学習を通じて、子どもたちが知識と心を育んだ結果といえます。

人権教育は、自らの行動を変えていく力を育みます。互いの存在や価値を認め、身の回りの問題を共に解決する経験の積み重ねが、自分自身、友達や家族、故郷など大切なものを守りぬく力を培い、子どもたちの笑顔があふれる未来へとつながるでしょう。

人権についての電話による相談窓口（平日のみ）

●いじめについて

益城町いじめ電話相談 ☎ 286-1770

●さまざまな人権問題

益城町福祉課人権推進係 ☎ 289-1400

同和教育、障がい者・女性・子どもの人権問題、人権に関する法律相談など、各種人権に関する相談窓口は、町ホームページ「人権についての電話による相談窓口」をご確認ください。



防災行政無線

防災行政無線で放送された内容が電話で確認できます。
自動応答電話 ☎ 286-0888

図 御船警察署 危機管理課

☎ 2862・1110
☎ 2862・1110

令和8年 町内の 事故・事件の発生状況

事故・犯罪区分	6月中	累計
人身事故	4	31
物損事故	78	439
空き巣	0	0
自販機狙い	0	0
万引き	3	10
オートバイ盗	0	0
自転車盗	1	4
車上狙い	0	0



◆地域安全ニュース
生活道路の法定速度が変わります
生活道路を走行する際の、自動車の法定速度が9月から時速30^キに引き下げられます。
■なぜ「時速30^キ」？
歩行者と車両の交通事故では、車両が時速30^キを超えると致死率が急激に高まります。両者を守るために設定されました。
■生活道路ってどんな道？
「生活道路」とは、地域住民が日常的に利用する道路のことです。
・中央線がない道路
・道路が狭い道路(目安5・5メートル未満)

益城西原消防署

☎ 286・2119

令和8年 町内の火災等発生状況

発生区分	6月中	累計
建物	0	2
車両	0	0
林野	0	1
その他	0	1
警戒出動	2	8
救急出動	131	859
救助出動	3	6



◆防火と救急
花火を楽しむための約束
夏の夜を彩る花火。家族や友人との思い出作りに遊ぶ機会も増えることと思います。
ただし、「おもちゃ花火」は気軽に楽しめる一方で、使い方を誤るとやけどや火災など事故に発展する危険性があります。
■花火をする際のチェックリスト
・大人と一緒に遊ぶ
・事前に水の入ったバケツを用意する
・正しい位置に正しい方法で点火する
・たくさん花火を一度に点火しない
・花火を人や家に向けない
・火が途中で消えても筒の先を触らない
・花火をほぐしてポケットに入れない

益城の 文芸

短歌

末武侑子 選

メール(mashiki890@gmail.com)、はがきで役場広報係に送ってください。締切は毎月10日(必着)。

投稿は①氏名(ペンネームの場合はふりがなも)②住所③電話番号④作品を明記し、

真向ひの玻璃戸に西陽きらめきて丸くまあるく光彩放つ 安永 守住 孝子
公民館に昭和の歌のひびきゐる雨に煙れる紫陽花は青 広崎 大原 郁
君逝きて樽の梅干し一粒を今朝も口にしたり重ねゆく 馬水 松本 稔
百舌歳迎ふるはずの誕生日赤飯蒸して父に供ふる 木山 本田 龍子
早苗田に姿うつして船野山風かと思れば親ツバメとぶ 木山 赤城 香織
早苗田に佇む鶯が一羽飛ぶ行方見送り夕映えの空 惣領 清水 宏
千切れ草岸に残して秋津川雨上がりたる蒲の穂ポツリ 惣領 甲斐 道夫
ザアザアがしとしとなる雨音に山は霞みて消えゆきにけり 馬水 増田 訓子
蝉時雨ひとしきり鳴きしずもりし夏空青く雲流れゆく 惣領 島田 廣子
やまかげをばつと明るく照らす花ヤマアジサイは和服が似合う 馬水 篠原 晴美
晩酌用ビールコップに冷水が注がれていてきよう休肝日 惣領 垣野 幸一

俳句 川柳 小春 選

父祖の庭朱く彩る野萱草 惣領 富田 信子
田植終ゆ水面に揺るるあかね雲 惣領 野宮 逸吉
取って置ききの切子に満たす一夜酒 惣領 阪口由美子
今朝も食ぶ妻の残せし樽の梅 馬水 松本 稔
手を伸ばす子の力こぶ夏の空 古閑 今村 恒心
梅雨晴間転び出でたる幼たち 木山 本田 龍子
雨に光る夏草おとぎの国めける 広崎 大原 郁
早苗田にいつまで遊ぶ夕つばめ 広崎 大石 高義
夕間暮れ紫陽花淡く浮かびをり 古閑 今村 恒心
涼求むスタバの奥は秘密基地 福富 井手 悦子
※7月号に掲載した本田龍子さんの句に誤りがありました。正しくは次の通りです。おわびして訂正します。
大輪の芍薬父の忌を修す 木山 本田 龍子